



Paint it RED!

未来を塗りかえろ。

このミッション・ビジョン・バリューは、お客さま、株主さま、地域社会をはじめとするあらゆるステークホルダーのみなさまに選んでいただけるパートナーであり続けることを謳っています。また、このあるべき姿の実現に向け、持続可能な成長を果たしていくこと、社員と会社がしっかりと学んでいくこと、誠実さと信頼を大切にすることなどを盛り込んでいます。

Mission

すべての人にハッピーな
ひとときをお届けし、価値を創造します

Vision

- すべてのお客さまから選ばれるパートナーであり続けます
- 持続可能な成長により、市場で勝ちます
- 常に学びながら成長します
- コカ・コーラに誇りを持ち、誰もが働きたいと思う職場をつくります

Values

- 学ぶ向上心を忘れません
- 変化を恐れず機敏に行動します
- 結果を見据え最後までやりきります
- 誠実と信頼に基づいた気高い志で行動します

CONTENTS

Section 1

価値創造ストーリー

企業理念「Paint it RED! 未来を塗りかえろ。」のもと CCBJHグループが目指す企業像や方向性を 価値創造ストーリーとしてまとめました。

- 09 トップメッセージ
- 11 数字で見るCCBJHグループ
- 13 CCBJHグループが展開するブランドおよび製品
- 15 価値創造サイクル
- 17 日本のコカ・コーラシステムの サステナビリティフレームワーク
- 19 CCBJHグループのコミットメントと生み出す価値

Section 2

価値創造への挑戦

価値創造の実現に向けたCSVの取り組みを「多様性の尊重」「地域社会」「資源」のプラットフォームごとに紹介しています。

- 21 **プラットフォーム**「多様性の尊重」への取り組み
- 25 **プラットフォーム**「地域社会」への取り組み
- 29 **プラットフォーム**「資源」への取り組み

Section 3

価値創造を支える基盤

CCBJHグループの価値創造の基盤となる取り組みや グループを牽引する経営体制などを紹介しています。

- 37 お客さま満足
- 38 品質保証
- 39 倫理・コンプライアンス
- 40 リスクマネジメント
- 41 人権尊重と社員の働きがい
- 43 コーポレート・ガバナンス
- 44 取締役一覧
- 45 CCBJHグループの概要
- 46 CCBJHグループの情報体系
- 47 工場見学のご案内
- 48 CSVレポート2021に寄せて

編集方針

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングスグループ(CCBJHグループ)は、飲料事業を通じて持続可能な社会の発展に貢献することを目指しています。当レポートは、ステークホルダーのみなさまに、CCBJHグループの共創価値(CSV)の理念とCSVの実現に向けた取り組みを具体的にお伝えするものです。

●参考にしたガイドライン

GRI(Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・レポートング・スタンダード」

●対象期間

報告事例の対象期間は、原則2020年1月～2020年12月末としています。
データの集計期間は、2020年1月～12月末です。

●対象範囲

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパングループ各社*を対象としています。一部の環境データの対象範囲はP36に注記しています。(グループ体制図はP45をご覧ください。)

●発行日

2021年5月

●用語について

CCBJHグループ(私たち)はコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス(株)および連結子会社7社(コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパングループ各社)を指します。CCBJHはコカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)を指します。CCBJHグループはコカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)およびコカ・コーラ ボトラーズジャパングループ各社を指します。ボトラー社は日本コカ・コーラ(株)が指定する全国のボトリング会社を指します。また、「コカ・コーラシステム」には日本コカ・コーラ(株)およびボトラー社・関連会社が含まれます。顧客はお客さま(主に消費者を指す)およびお得意さま(主にお取引先を指す)を含みます。

*コカ・コーラ カスタマー マーケティング(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパンベンディング(株)、FVジャパン(株)、(株)カディアック、コカ・コーラ ボトラーズジャパンビジネス(株)、コカ・コーラ ボトラーズジャパンベネフィット(株)

これまでのやり方は選択肢にない。 変化を恐れずに前進し、持続的成長を。

新型コロナウイルス感染症により被害を受けられたみなさまに、心よりお見舞い申し上げます。また、最前線に対応されている医療従事者の方々をはじめ、関係者のみなさまに深く敬意を表し、感謝申し上げます。

すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造するために。

全世界が未曾有のコロナショックに見舞われ、経済活動や社会生活は一変しています。劇的に変化する環境のなかで、企業は収益を守りつつ、サービスを提供し続けるために変化を余儀なくされています。国内飲料業界も同様で、在宅勤務の浸透や外出自粛による影響からコンビニエンスストア、自動販売機などでの需要が減少し、厳しい状況が続いています。そのような中で、コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングスグループ(CCBJHグループ)は、柔軟に在宅勤務体制へとシフトするとともに、厳格な衛生基準を取り入れることで、働き方を迅速に適応させ、消費者のみなさま、お得意さま、社員およびコミュニティの安全の確保と、飲料寄贈など地域社会への継続的なサポートを最優先に活動しています。私たちのミッションは「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造すること」です。これからも、日常生活に欠かせない安全で信頼できる製品やサービスの提供に努めてまいります。

さらなる成長に向けて 変革のアクセルは緩めない。

CCBJHグループは、ビジネスの成長と社会の持続性をひとつの課題として捉える共創価値(CSV:Creating Shared Value)を経営の根幹としています。

ミッションの実現に向け、CSVの活動を継続していくためには企業体力の向上が鍵であり、2020年は、厳しい環境下「これまでのやり方は選択肢にない」との強い意志を持って変革を加速させました。中でも、より機敏で柔軟な供給インフラ構築に注力し、2019年より投資を進めていた製造ライン全7本が稼働したことで、需要が増えている無菌充填製品の製造能力が20%増加しました。2021年2月には、最新の大規模自動物流センター(埼玉メガDC)が稼働し、物流ネットワークの最適化が着々と進んでいます。埼玉メガDCの稼働を今年中に加速することが、今後の効率化とコスト削減に重要な役割を果たします。加えて、2018年の西日本豪雨被害により移転し、生まれ変わった新・広島工場は、2020年6月より稼働し、10月には、ステーキホルダーのみなさまとの大切なコミュニケーションの場となる見学施設も完成しています。

社会が抱える「重点課題」の 解決に向けて進捗は順調。

国連が提唱している「SDGs(持続可能な開発目標)」の目標年まで、残り10年を切ったいま、E(環境)、S(社会)、G(ガバナンス)関連の活動は、より重要性を

増えています。日本のコカ・コーラシステムは、SDGsをふまえ「多様性の尊重」「地域社会」「資源」の3つをサステナビリティのプラットフォームとし、その中で優先すべき9つの重点課題を特定しています。これらの課題解決に向けてCCBJHグループは独自の非財務目標「CSV Goals」を策定し、具体的な取り組みを進めています。

「多様性の尊重」の領域では、2021年1月に、当初目標としていた女性管理職比率6%を前倒しで達成し、2030年までに女性管理職比率20%という目標に更新しました。

「資源」の領域では、ザ コカ・コーラカンパニーが掲げるグローバルビジョン「World Without Waste(廃棄物ゼロ社会)」に基づき、2018年1月に日本のコカ・コーラシステムが策定した「容器の2030年ビジョン」(2019年7月に更新)の目標達成を目指して、「設計」「回収」「パートナー」の3本柱で取り組みを進めています。進捗は順調で、2020年のPETボトル容器のリサイクルPET樹脂使用率は28%(前年比7ポイント増)となりました。2020年3月には100%リサイクルPETボトルを使用した「い・ろ・は・す 天然水」の販売、4月には「い・ろ・は・す 天然水 ラベルレス」のオンライン販売を開始し、石油から新規製造されるプラスチック量の大幅な削減を実現しています。

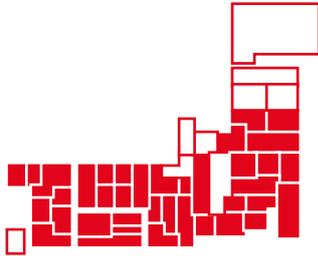
「地域社会」の領域では、地域とのパートナーシップという財産を活用し「多様性の尊重」「資源」の優先課題解決を支え、健やかな社会づくりの一助を担います。

持続的成長への好循環創出には ステークホルダーとの 協働が不可欠。

現代は社会課題が複雑化し、さらには、新型コロナウイルス感染症という未知なる敵が加わったことで、不透明性が一段と増えています。しかし、いかなる時も私たちが目指すのはミッションの実現です。ミッションを果たすことは、ハッピーなひとときをお届けするだけでなく、事業活動を通じて利益を上げながら社会に価値を提供し続け、社会全体を持続的成長の好循環サイクルに導くことを意味します。そのためには、ステークホルダーとの協働が不可欠であり、みなさまから信頼と支持をいただけるよう社会の中での役割を全うするとともに、企業グループとしてさらなる進化を目指してまいります。2021年は、世界中が待ち焦がれた東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が期待されています。私たちは、オリンピックのワールドワイドパートナーであるザ コカ・コーラカンパニーや日本コカ・コーラと協力しながら、開催地ボトラーとして「すべての人にハッピーなひととき」をお届けし、心に残る大会の成功に向けた役割を果たしてまいります。

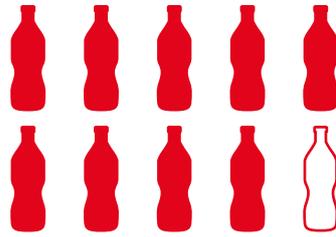
コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社
 代表取締役社長 カリン・ドラガン



営業地域

1都2府35県



販売数量

国内コカ・コーラシステムの
約90%



エリア内の人口

約1億1,200万人
(5,100万世帯)



製造拠点数

17工場



営業拠点数

約330カ所
(ディストリビューションセンター含む)



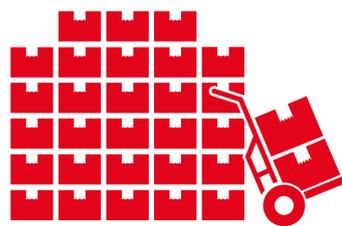
取扱店舗

約25万軒



自動販売機

約70万台



年間販売数量

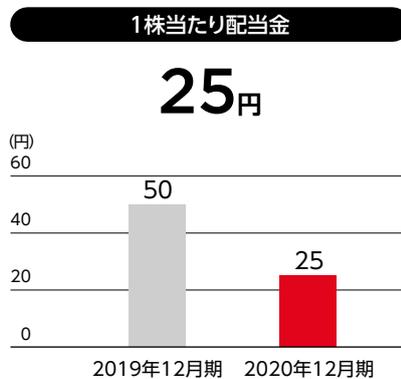
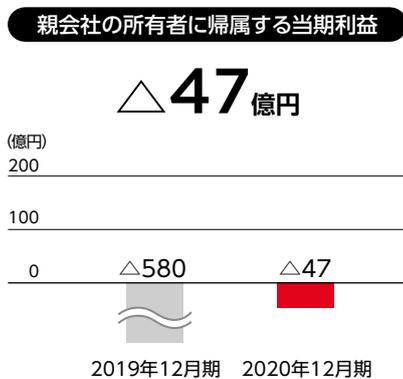
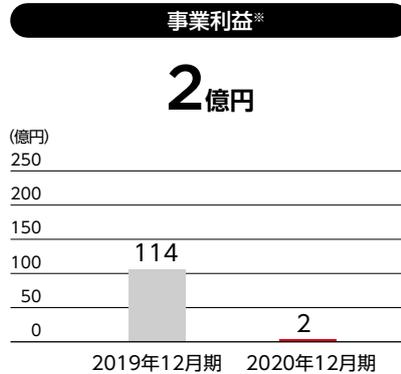
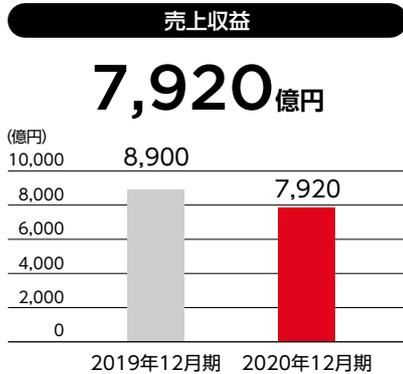
約5億ケース



車両台数

約14,500台

2020年12月期連結決算ハイライト(IFRS)



※事業利益は、事業の経常的な業績を計るための指標であり、売上収益から売上原価ならびに販売費及び一般管理費を控除するとともに、その他の収益およびその他の費用のうち経常的に発生する損益を加減算したものです。

2020年12月に当社が保有するキューサイ株式会社の全株式売却を決定したため、2020年12月期において、同社および同社の子会社の事業を非継続事業に分類しています。これに伴い、前期の売上収益、事業利益および営業損失について、非継続事業を除いた継続事業の金額に組替えています。

2021年の主な目標指標

「強靱さの確立」から「成長軌道への回帰」にシフト

市場シェア

売上回復を目指し、金額シェアを成長

コスト削減

70~90 億円

変革による経常的なコスト削減目標

年間配当金

50 円/株

安定配当に回帰

設備投資*

450~500 億円

COVID-19影響による不透明感が続く間は新規設備投資を抑制

減価償却費

550~600 億円

2020年までに実施した供給能力拡張投資が影響

リサイクルPET使用率

40%

リサイクルPET使用率の拡大は2030年の目標に向け順調

※IFRS第16号によるキャッシュアウトを伴わない設備投資は含まず

CCBJHグループが展開するブランドおよび製品

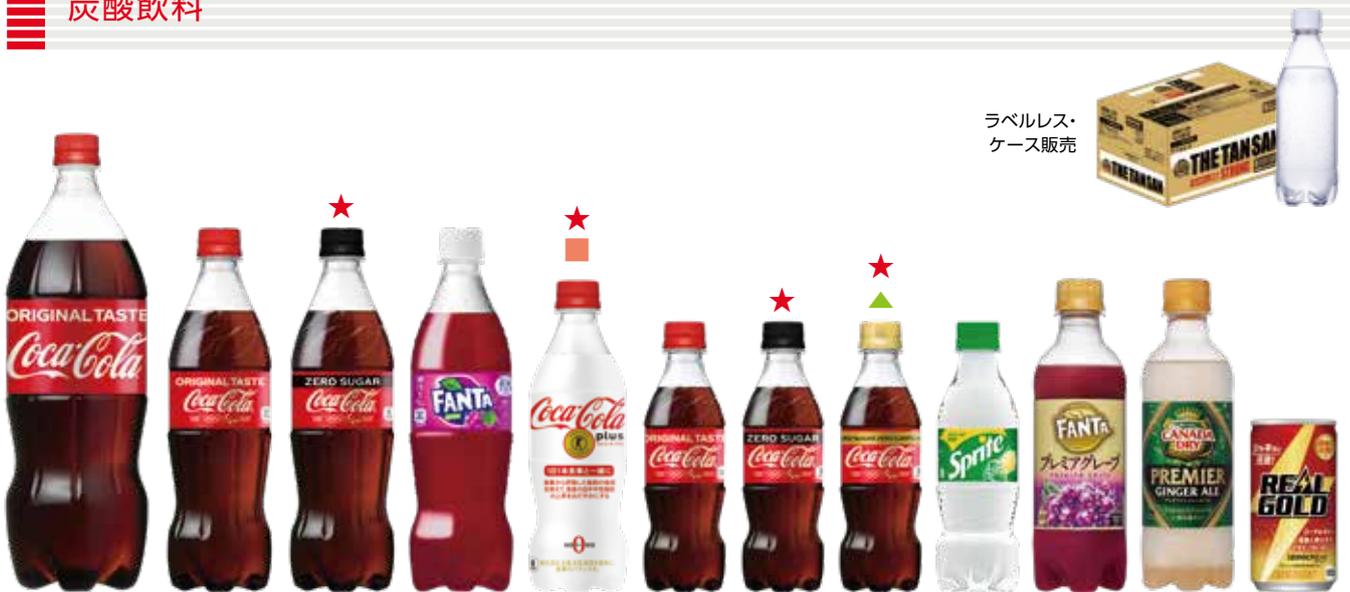
CCBJHグループは、多様なニーズに合わせた豊富なラインナップを取り揃え、みなさまのさまざまなライフスタイルやシーン、健康的な生活をサポートすることを目指しています。

アイコンの説明

- ★ ゼロカロリー／ノンカロリー
- 機能性表示食品
- ◆ 微糖
- ▲ ノンカフェイン
- 特定保健用食品



炭酸飲料



茶系飲料



コーヒー飲料



※2021年6月7日発売予定

スポーツ飲料



水系飲料



果汁飲料



アルコール飲料



持続的成長を実現するために

CCBJHグループは、米国のザ コカ・コーラ カンパニー、日本のコカ・コーラシステム各社との連携のもと、かけがえない水や原材料などの資源を大切に使用し、すべてのお客さまへ高品質、高付加価値の製品を提供することで、社会価値と経済価値を創出し、持続的成長の実現を目指しています。

MISSION

すべての人にハッピーな
ひとときをお届けし、
価値を創造します

INPUT

自然資本

- 価値創造の源泉となる水と原材料

知的資本

- 「コカ・コーラ」に代表される世界的ブランド群と日本で愛され続けるブランド群
- お客さまのニーズを形にするためのマーケティング力・R&D力
- 日本コカ・コーラを含む日本のコカ・コーラシステム各社、米国のザ コカ・コーラ カンパニーとのリレーション

製造資本

- 海外のコカ・コーラシステムの規模を活かした安全・安心の製品づくりを実践するための原料調達網
- 製造工場の最先端の管理システム、設備、技術力
- エリア内を網羅する自動販売機

人的資本

- 多様性を尊重したグローバル人財の活用
- 能力を最大限に発揮できる多様な働き方

社会関係資本

- CSV活動とともに推進するステークホルダーとの信頼関係
- エリアの隅々までいきわたる地域における活動

財務資本

- 資本の適切な管理・運用
- 強固な財務体質
- 株主還元

C

Creating



多様性の尊重

日本のコカ・コーラシステムの
サステナビリティフレームワーク



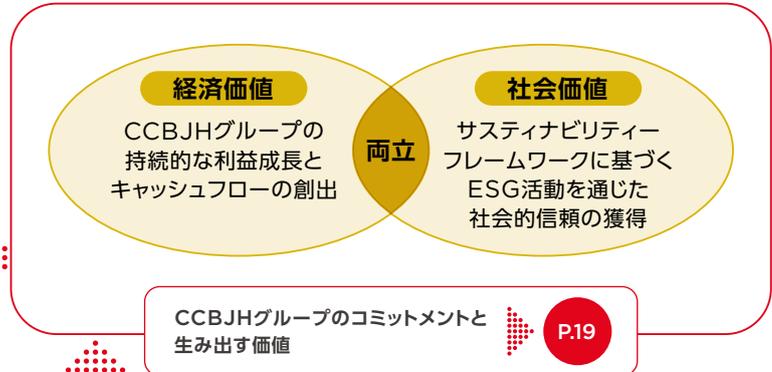
P.17

サステナビリティフレームワーク
ごとの活動報告



P.21

OUTCOME



OUTPUT



BUSINESS MODEL

CCBJHグループが展開する飲料ビジネスでは、お客さまが飲みたいときに飲みたいものを飲みたい場所で提供することが不可欠です。そのため、CCBJHグループでは米国のザ コカ・コーラカンパニーや日本コカ・コーラと連携しながら、「業界最高水準のイノベーションとオペレーションの実現」に努めています。社会・市場環境の変化に迅速に対応しながら、お客さまのニーズはもちろん、アンメットニーズ(潜在的なニーズ)にもお応えする製品やサービスを生み出しています。

日本のコカ・コーラシステム

日本のコカ・コーラシステムは、原液の供給と製品の企画開発やマーケティング活動を行う日本コカ・コーラと、製品の製造、販売、回収などを担う5つのボトラー社・関連会社で構成されています。



SV Shared Value



CCBJHグループのさらなる成長機会は社会課題の解決にあると考えており、CSVを事業の根幹と位置付けています。CSV活動は「多様性の尊重」「地域社会」「資源」という3つのプラットフォームと9つの重点課題から成るサステナビリティフレームワークに基づき実行しています。

日本のコカ・コーラシステムのサステナビリティフレームワーク

日本コカ・コーラとコカ・コーラ ボトラーズジャパンは2019年、サステナビリティのグローバル目標達成に加えて、日本独自の課題をベースにした戦略を立案し、コカ・コーラシステム共通のアクションプランへ落とし込むことを目的に、サステナビリティの課題抽出と優先順位の特定のための大規模な共同調査を行いました。

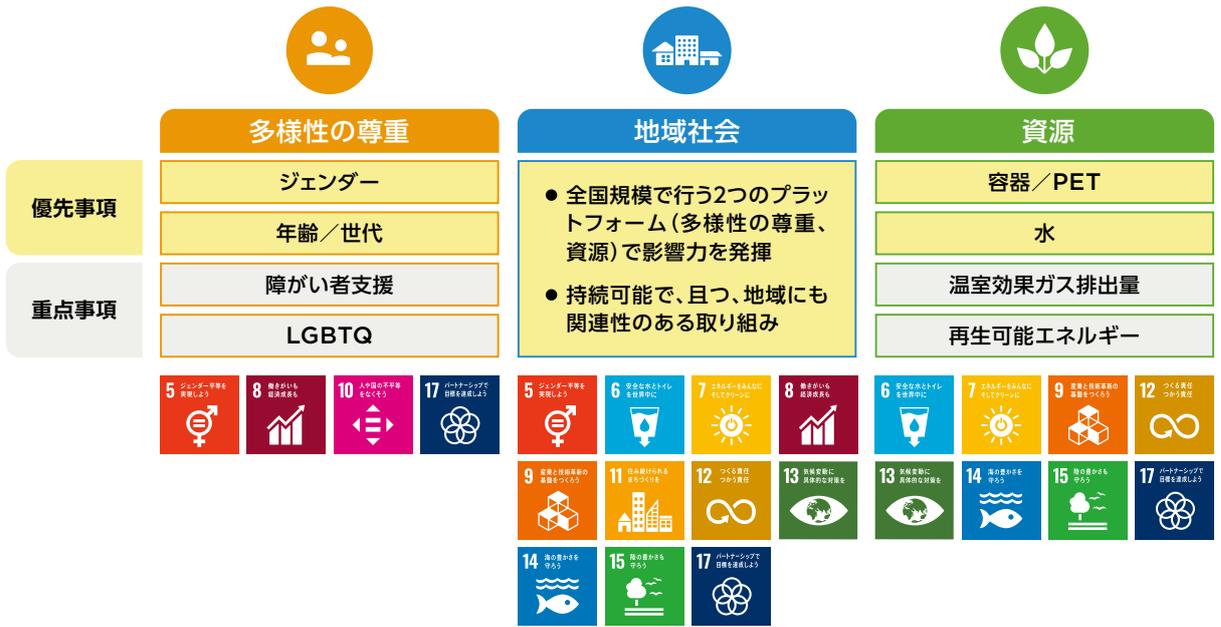
その結果、「多様性の尊重(Inclusion)」「地域社会(Communities)」「資源(Resources)」の3つのプラットフォームと国内のコカ・コーラ事業全体で取り組むべき9つの重点課題が合意されました。

サステナビリティ活動の目的

コカ・コーラシステムは、環境や日常生活、私たちを取り巻く地域社会などの各場面で、日本が直面する重要な課題に対し、ビジネスを通じて変化をもたらし、さわやかさを届けながら、未来を共創していくことに責任を持って取り組みます。

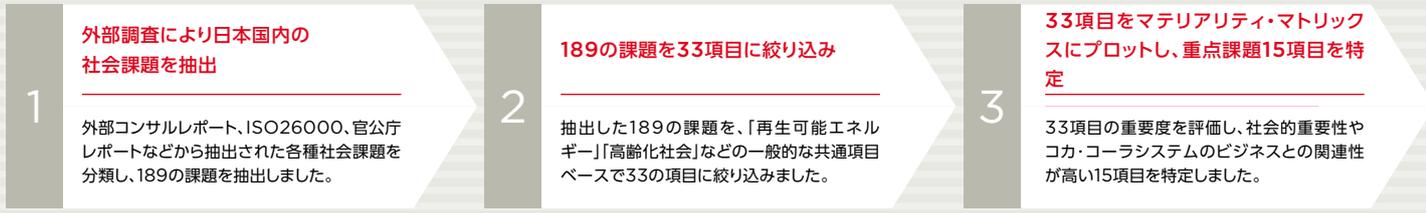
日本のコカ・コーラシステムのサステナビリティフレームワーク (3つのプラットフォームと9つの重点課題)

9つの重点課題はさらに、喫緊の課題とする優先事項5項目と、現時点では優先度は比較的低いが重要かつアクションプランが必要と捉える重点事項4項目に分類しています。また、各領域における持続可能な開発目標(SDGs)との関わりを検証し、SDGsの達成も目指すことで、社会課題の解決に貢献します。



今後、コカ・コーラシステムは、重点課題をもとに、さらに具体的なアクションを再構築していきます。
また、日本のコカ・コーラシステムの活動の進捗状況や成果は、引き続きサステナビリティレポートを通じて定期的に報告すると同時に、NPOや外部専門機関、有識者など第三者意見を取り入れ、時代に即した活動に取り組みます。

サステナビリティフレームワーク特定プロセス



CSVを統括するレイモンドに聞く

Q.1 | **サステナビリティフレームワークの特定に至った経緯を教えてください。**

2018年、コカ・コーラはグローバル目標として「World Without Waste(廃棄物ゼロ社会)」を掲げ、容器の100%リサイクルなどを推進するとともに、水資源保護や女性活躍推進など、さまざまな社会課題に取り組んでいます。そこで私たち日本のコカ・コーラシステムは、グローバルな課題だけでなく日本が世界に先駆けて取り組むべき日本特有の課題にも、どのようにアプローチするかを重視しました。システム全体で対話の場を設け、グローバル目標と整合させながら、日本が抱える社会課題から優先すべきテーマを抽出し、私たちの強みをもって課題解決を目指すと同時に、「すべての人に幸せなひとときをお届けし、価値を創造します」という使命を果たす地域のパートナー企業として、事業の成長と社会的信頼を守るための戦略を構築することが重要だと考えました。

Q.2 | **サステナビリティフレームワークの特定において重視したことは何ですか？**

注目したのは次の3つの観点です。1つ目は「日本と海外との関係性」です。あらゆる課題をグローバルと日本、2つの視点で捉える必要があると考えました。2つ目は、「現在と将来の関係性」です。現時点のことだけにフォーカスせず、将来も見据えたテーマを選ぶことも重要です。3つ目は「社会的インパクト」です。私たちの強みを活かして社会ニーズにしっかり応え、ポジティブなインパクトを与えられることを重視しました。この3つの観点から、日本独自の課題と私たちの強みを両立するテーマを特定しました。中でも容器の

執行役員IR & コーポレート
コミュニケーション本部長

レイモンド・シェルトン



資源循環については、グローバルの目標よりもさらに高い日本独自の目標を設定しました。

Q.3 | **日本のコカ・コーラシステム全体で取り組んだ理由は？**

大事なのは課題の特定ではなく、課題解決のための「実践」です。日本の中でも課題やニーズは地域ごとに異なり、外部との連携も含めたエリアに応じた取り組みも必要です。それには、日本全国のコカ・コーラ関連会社や外部組織との連携が欠かせません。世界のコカ・コーラシステムの事業規模を生かし、かつ各地域のステークホルダーと接点を持つボトラー5社と日本コカ・コーラの連携が重要です。サステナビリティフレームワークの策定後、「多様性の尊重」「地域社会」「資源」のプラットフォームにおいて、日本のコカ・コーラシステムが一丸となった取り組みを強力に推進しています。

昨今、サステナビリティの重要性は一層高まっています。私たちは、今後もビジネスを通じてステークホルダーのみならず重要課題の解決に向けた活動を推進していきます。

4 **コカ・コーラシステム内におけるインタビュー実施とアップデート**

日本のコカ・コーラシステム内のマネジメントや社員のワークショップで特定された重点課題を加えて、19項目にアップデートしました。

5 **3つのプラットフォームと重点課題9項目を特定**

日本コカ・コーラとコカ・コーラ ボトラーズジャパンのマネジメントのディスカッションを経て3つのプラットフォームと9つの重点課題が合意されました。



2019年実施のワークショップ

生み出す価値 (Outcome)

OUTCOME

経済価値



責任ある事業活動を推進し、収益性を確保することで持続的成長を実現すること

社会価値



消費者・お客さま

- 毎日の生活を支える飲料や、健康に関する情報発信を通じてすべての人にハッピーなひとときを提供
- 適切な飲料習慣の啓発・サポート



地球環境

- 低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の推進・構築



お得意さま・サプライヤー

- とともに持続的成長を目指す建設的なリレーション
- 生産者、小売店、飲食店への長期的なサポート



社員

- ジェンダー、年齢、世代にかかわらず誇りを持って働き、学び続けられる職場環境・機会の提供



地域社会

- 地域の活性化
- 社会的課題解決への貢献



株主

- 収益性の確保やESG活動の推進による株主価値創出

